2022 年度実施概要

学校名

大牟田市立駛馬小学校

採択活動名

有明海や三池港を生かした大牟田海洋教育プロジェクト

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 有明海と諏訪川の生き物を調べよう	３年	総合的な学習の時間
2. クリーンアップ諏訪川・有明海	４年	総合的な学習の時間
3. 有明海の歴史と産業を調べよう	５年	総合的な学習の時間
4. 海と川との共存発信プロジェクト	６年	総合的な学習の時間

取り組みの概要

中学年において、身近な諏訪川や有明海干潟の生き物観察、また、川の水質調査や清掃活動等の体験を通し、海や川に親しみ、海や川を知る活動を行った。そして、高学年においては、 有明海、特に三池港の歴史や産業について調べ、さらに、校区にある明治日本の近代化を支えた世界文化遺産「宮原坑」と海底資源「石炭」とのつながりに目を向け、海との共存や海からの恩恵について、学んだことをもとに、自分たちにできることを考え行動するとともに、それらのことを多くの人に発信した。

３年：海に親しむことを目的とし、有明海に注ぐ諏訪川や有明海干潟の生き物を探し、その生き物の名前や特徴、生息域等を調べた。探索活動や調活動をもとに、諏訪川や有明海に生息する様々な生き物について、生き物新聞や図鑑を作成し、校内や地域に発信した。

４年：諏訪川でのカヌー体験を振り返り、水面や護岸の様子で気がついたことなどを出し合い、諏訪川の中流域でゴミの量や、諏訪川流域の水質を調べた。諏訪川流域の環境や水質の現状から、諏訪川を守る取組について多くの人に発信することの必要性を実感し、ポスターやパンフレットを作成し、校内や地域に発信した。

５年：室町時代、江戸時代、明治時代の石炭採掘と運搬の歴史について調べ、三池炭鉱の「宮原坑」から掘り出される石炭の採掘の場所や方法、運び方が年代によって異なることが分かった。また、三池港クルーズ体験を通して、三池港の開港により大量運搬が可能になり、大牟田の産業の発展に寄与したことを学んだ。さらに、そのことを多くの人に伝えるために、年代別の石炭採掘と運搬の歴史についてクイズを作成し、校内に掲示したり、分かったことを模造紙にまとめたものを公民館に掲示したりして、発信した。

６年：有明海と宮原坑のつながりについてさらに学習を進め、明治時代後期より、宮原坑と有明海にある三池港とは鉄道で結ばれており、採掘した石炭は、有明海を利用して日本各地に運ばれたり、世界各国に輸出されたりしていたことが分かった。また、有明海海底の石炭は、地中で４０００万年の長い時間をかけてできあがったことを知った。この有明海と宮原坑は、運輸によるつながりだけでなく、４０００万年前からの有明海の恵みである海底資源石炭との深いつながりがあったことを明らかにすることができた。さらに、「宮原坑」と「三池港」とのつながりについて、三池港のガイドの方に話を聞いたり、三池港についての動画やパンフレットを見たりしながら、新たに分かったことをボランティアガイドパネルに付け加えた。そして、先輩から引き継がれた「子どもボランティアガイド」を修学旅行で訪れた児童生徒などの宮原坑来場者に行うことで、さらなる内容の充実を図り、世界文化遺産である「宮原坑」と「三池港」の魅力を多くの人に発信した。

活動中の写真